

立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」
めどら

◇5代会長夫人 三幣昌子之霊様20年祭◇

11月14日 (火) 午前10時執行
年祭にお参拝下さいます方は、
事前に所属教会へご連絡下さい。

◇少年会網走団 こどもおぢばがえり終了◇

7月28日 (金) ~ 8月2日 (水) の日程で
おぢばがえりさせて頂いた。
参加者 少年会員52名 育成会員48名



大教会のHP がご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会七月月次祭

大教会7月の月次祭は、12
日午前9時30分から大教会長
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様
の御守護に御礼申し上げた後
「今月は初席者二名、修養科
修了者三名、教人講習受講者
一名の人の御守護を賜りまし
たこと、厚く御礼申し上げま
す。私共教会長をはじめよう



神殿講話全文

神殿講話

藤山重善

役員

先月の月次祭の後、ある方
に「来月呼人の会長さん神殿
講話だね」と言われ、私は「そ
うなんだけど、何を話したら
良いか、全然思いつかないん
だよね。」と言ったら、その
方に「話す事無かったら、歌
歌っちゃえば？」と言われ、
五月の網昇の会長さんの神殿

ぼく一同は、三年千日一年目
の半分が早くも過ぎる中、成
人の歩みを止めることなく、
教祖へ御恩返しができるよう
心定め達成に向けひたすら理
作りに徹し、旬の御用に全力
で伏せ込ませて頂く所存でご
ざいます。」と奏上した。
その後座りづとめ・十二下
りのてをどりが勤められ、参
拜者は共に勇んでみかぐらう
たを唱和した。

したが、子供たちは意外にも
真剣に聞き、その後の親神様
教祖の話も真剣に聞いてくれ
ました。子供たちが大きく
なっても「隆三のおばあちゃ
ん神様の歌、歌っていたよ
ね。」と覚えていて、歌のパ
ワーってすごいなあと、そん
な事をふと思いつきました。
大教会では四月から修養科
事前研修会「網走よろこびセ
ミナー」が行われています。
これが今熱いんです。毎月十
名前後の方が参加され、今月
も十二名の方が参加の予定で
すが、参加者も講師もとにか
く一生懸命で熱いんです。
まだ修養科に行く予定では
ない方でも、是非、誘って一
緒に参加してみてください。私
は先月その研修会の講師を勤
めさせて頂きました。その
テーマは「親神様・教祖・ぢ
ば」でした。そんな事もあり
今回は教祖のひながたのお話
をさせて頂きます。
教祖のひながたと言っても
何をお話させて頂こうかなと
考えた時、以前、大教会長様
が「いつもお話しを考える前
に、まず教祖傳を一度読んで
から取り組む」と言う話を思

い出し、私もやって見ました。ちよっとズルはしましたが、半日ばかり読み終えました。「教祖のひながた」を心に置いて読ませて頂くと、今まで何度も読み、内容も分かっているはずのお話が、自分の受け取り方が少し違っているように感じ、改めて気付かせて頂く事がたくさんあります。

私たちは、このお道、天理教を信仰しています。でもこの信仰で何の得があるのでしょうか。周りには天理教を信仰していない人でも幸せに暮らしている人はたくさんいます。

よく、この神様を信じなければ幸せにはなれない、などという宗教もありますが、この天理教の教えはそうではありません。人に優しく、いつも明るく、自分の事を差し置いて、人の事を考えて、教祖の教え通りに通らせて頂く。そうして陽気ぐらしに向かっていくのがこのお道の教えなのです。

ではなぜこの信仰が有難いのか、それは、教祖のひながたです。我々には教祖のひながたがあります。どんな人でも身上や事情で悩む時があります。そんな時でも私たちは慌てる事なく、教祖のひながたのお陰で何があっても、前を向いて通る事が出来ると思います。それが私たちの最大の強みです。でもそのひながたをよく理解していなかったり、実行しなければ何もうりません。

教祖は、月日のやしろとなられてからの五十年は、ただ口で言うだけではなく、教祖ご自身が身に行って、実行して通られたのがひながたなのです。

教祖の通られた五十年は全てひながたなのですが、その五十年の半分、二十五年は一人の信者も出来ず、二十五年たつてやっと三合のお米を御供してくれる人が出来ました。私たちがおいがけ、おたすけをさせて頂いても、なかなかうまくいかない時、教祖でも二十五年かかったと思えば、この事一つでも有難いひながたと感じます。しかし私は、教祖が二十五年以上も貧のどん底を通られた事に、少し腑に落ちない点がありました。

教祖は貧に落ちざる為に、中山家にある物全てを、困っている人に与えられました。でもその教祖に助けられた人たちは、教祖が貧のどん底を通られていたのを見て、どう思っていたのでしょうか。

更には、教祖がまだ月日のやしろになられる前、近所の女性に子供が出来たが、お乳が出ず困っているの、教祖はその赤ちゃんを預かっていたのですが、その最中に、赤ちゃんが黒疱疹に罹り、医者にも助からないと言われて、教祖は氏神様に娘二人の命と引き換えにどうか助けてもらいたい、そして、願満ちたその上は教祖自身の命も差し上げますと願いました。そしてその願いが叶い、その赤ちゃんは助かり、そしてその引き換えに、年を分けて娘二人を神様は迎い取られた。と言うお話があります。

きっと助けられた赤ちゃんの親は、大変喜び教祖に感謝したと思いますが、教祖が貧のどん底を通られていた時、近所に居ながら、助ける事なく、信仰どころか、お道に繋がっていないのが事実であり

ます。

この事実が、私には腑に落ちず、この事をひながたと考えるならば、この貧のどん底を通られた二十五年は、お道的にはあまり動きが無かった時ですが、この後、天理教が国の弾圧があるにも関わらず、もの凄く速さで信仰が広がっていった事を考えると、何事も伏せ込みが大切であるという事、そしておたすけに對しては、人の為に心を尽くして、見返りを求めない心、その心が大切なのだと思います。

そして親神様は「尽くした理は末代」と聞かせて頂いておりませんが、本当の喜びは、何かをもらったとか、褒められたとか、誰かに親切にしてもらった、という喜びではなく、誰かを助ける為に、自分が全てを出し切った後に、その心の底に湧いてくる喜び、それこそが本当の喜びであると教えて下さったのだと思います。

教祖の五十年のひながたは、たくさんのお話を我々に残してくれましたが、これは全て、親神様が私たち人間を作られた目的である陽気ぐらし、こ

の陽気ぐらしをする為の、唯一の方法、それがひながたにあります。

では、この陽気ぐらしをする為に具体的にどうしたら良いのか。それは、先ほどお話しした貧のどん底を通られた二十五年間にあります。いわゆる、自分の心を低くする事です。そしてそれを喜んで通る事です。

親神様は私たち人間をお創り下さいました。という事は、私たちは親神様から見れば可愛い子供です。私たちがだけではなく、アメリカの人も今戦争をしているロシアの人もウクライナの人も、また天理教なんてとお道を批判する人も親神様にとっては可愛い子供なのです。ですから、神様のご守護も皆平等なのです。お前は親神様の事を信じないから、ご守護は半分しかやらない、という事は有り得ないのではありません。

では陽気ぐらしが出来るか出来ないかの違いはどこにあるかというと、自分の心の位置だと思えます。例えば全ての人に五十のご守護を平等に与えても「なんだ五十しかく

少年会デイキャンプ

7月2日(日) 網走トレイルニングフィールド(呼人)にて、デイキャンプが行われた。

午前中は霧がかかり、肌寒いような気候だったが、おもしろ自転車遊び、昼食にはジンギスカンを食べた。午後からは、天候も回復し、暑いぐらいの中、バドミントンやラグビーをして汗を流したり、遊具や鬼ごっこをして遊ばせて頂いた。

▼参加者 少年会員13名 育成会員7名



「なんだこのネタ、脂ものつてないし、ネタが小さい」などと思うのではないでしょう。同じお寿司を食べても、美味しいと笑顔で食べた方が陽気ぐらしではないでしょうか。

教祖のひながたは、陽気ぐらしをする為と言いましたが、その為に、成って来る事全てを喜ぶ事、そして、喜ぶには心を低くする事、それを教祖は二十五年かけて貧のどん底を通して、身を以って教えて下さいました。

しかし自分の心を低くする事は大変な事です。私も高慢

がたがあります。どんな人でも身上や事情で悩む時があります。そんな時でも私たちは慌てる事なく、教祖のひながたのお陰で何があっても、前を向いて通る事が出来ると思います。それが私たちの最大の強みです。でもそのひながたをよく理解していなかったり、実行しなければ何もうりません。

教祖は、月日のやしろとなられてからの五十年は、ただ口で言うだけではなく、教祖ご自身が身に行って、実行して通られたのがひながたなのです。

教祖の通られた五十年は全てひながたなのですが、その五十年の半分、二十五年は一人の信者も出来ず、二十五年たつてやっと三合のお米を御供してくれる人が出来ました。私たちがおいがけ、おたすけをさせて頂いても、なかなかうまくいかない時、教祖でも二十五年かかったと思えば、この事一つでも有難いひながたと感じます。しかし私は、教祖が二十五年以上も貧のどん底を通られた事に、少し腑に落ちない点がありました。

という言葉に衝撃を受けました。最後まで聞けば、意味は変わらないのですが、先生のおっしゃりたかったのは、この年祭を我が事と思って通ってもらいたい。そして教祖が現身を隠された当時から、年が経つにつれ、教祖がだんだん遠い存在になって来ている。もっと身近に感じて欲しいとおっしゃいました。

私達はこの年祭に向け、教祖の事をもっと勉強して、今まで以上に知り、より身近に感じることが大切だと思えました。そしてその教祖に喜んで貰える様な行動をする事です。しかし外に向かつておいてあげや色々な行動が出来る方は良いのですが、なかなか新しい事をするのは大変です。

大教会では、昨年から教会長夫妻のねりあいを繰り返して行っています。また年祭に向け色々な動きが出てきています。コロナの影響も治まり、例年の行事も復活し、今月は子どもおぢばがえりも四年ぶりに開催されます。また本部では、年祭までに五回「ようぼく一斉活動日」が計画され、一回目は十月二十九日に行わ

立教186年人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教 人
69名	44名	34名	21名
成 果 (7月末現在)			
16名	4名	4名	1名

4年ぶりとなる子どもおぢばがえりに、網走大教会からも網走団として多くの子供たちがおぢばがえりをさせて頂いた。

7月28日、大教会を出発。小樽からフェリーに乗り、29日の夜中に詰所に到着した。30日、本部で朝のおつとめをさせて頂き、回廊ひのきしん、おやさとかた講話などのおぢば行事に参加し、夜は室内オリンピックで楽しんだ。31日は、子供たちが毎年楽しみにしている、USJに行かせて頂き、それぞれ乗りたいたトラクションに乗ったり、家族や友達にお土産を買ったりと、充実した1日を過ごさせて頂いた。

1日は、午前中に奈良市民プールで夏を満喫し、午後からは、本通りで自由時間を楽しみ、夜は花火大会で盛り上がった。

少年ひのきしん隊に参加した7名の中学生も、元気に各所でお茶を配ったり、ひのきしんに励んでくれた。

期間中、大きな事故や怪我もなく、本当にありがたいおぢばがえりとなった。

日頃より育英会の上にお礼を申し上げます。心より御礼を申し上げます。育英会は、「次代の教会活動を担う人材の育成」を会運営の芯としております。

この度、実に四年ぶりに開催された、子どもおぢばがえり、又、学生生徒修養会・高校の部に関しての活動費用一部を、本会より助成させて頂きました。

ご承知のとおり、本会の基金は、教会記念祭やご結婚、ご入学、ご出産をはじめ、お出直し、年祭など、節目ごとに賜る、皆様からの篤志によって成りたっております。このご厚情によって、次代の教会活動を担う人材の育成は、大きく前進していくものと存じます。

「教祖百四十年祭」に向かうこの時旬に、一人でも多くの子供達が、おぢばで学び、将来に向かって立派な「よふぼく」として、世界たすけの一翼を担ってくれることを期待し、本誌を通じて心から御

育英会より

礼を申し上げますと共に、尚一層のご尽力を賜りますようお願い致します。

末筆ながら、この度の助成について、保護者の皆様には、本会会員皆様からの篤志である真意をおくみ取り頂き、お子様に上手な取り次ぎの御丹誠をさせて頂きますよう、お願い申し上げます。

育英会会長 三幣正志

9月17日(日) 10時から、北海道教務支庁を会場に、札幌ようき会主催のようきセミナーが開催されます。

コロナウイルスが流行してから、ようき会の動きもストップしていましたが、教祖140年祭に向けて動き出そうという事で、現在大教会にて行われている、修養科事前研修会『よろこびセミナー』に多くの方が受講してもらいたという思いから、参加した方の体験談や、大教会役員をお迎えして、PRしてもらいたいと思っております。詳細は後日お伝えしたいと思います。

ようき会通信

研修会、一回目の時、病気がちな主人の心の使い方が悪いから、病気になるんだなと思っていました。私の心が主人を病気にしてしまっていたことが分かり、深く反省させて頂きました。

今回の二回目は、八名の仲間が一緒でした。一人ひとりの心が、美しく輝いていることを初めて知り、感動致しました。学ばせて頂きます。

誠綱 仲澤真理子

心の出直しをさせて頂いたと思えました。言葉では説明できないくらい有難かったです。有難うございました。

誠綱 中島紀美子

研修会にお誘い頂いて本当に良かったと思えました。修養科は、五十代の時に行かせて頂きましたが、また、以前とは違って気付かせて頂くことがたくさんありました。今度は、人をお誘いして、再度、研修会に参加させて頂きたいと思えました。

修養科事前研修会 よろこびセミナーを受講して

私は二度、修養会に行かせて頂いていますが、たくさんのごことを彷彿と思ひ出させて頂きました。幼少の頃、大教会に両親と来ていましたが、久しぶりに大教会に親子で来たことをうれしく思いました。天理教のすばらしさを伝えてくれた母に感謝です。今回、九名の方と楽しく勇んで研修会に参加できてうれしく思いました。また、参加したいです。

誠綱 八重樫隆

お道はたすかります、と改めて心に響きました。これは大教会の方々の講義のお陰と思えました。修養科には今は行けません。おぢばがえりさせてもらいたいと思えました。

次に繋がって来る人たちのためにも、日々おつとめやひのきしんをもっとさせて頂き、自分がお道に感謝している姿を磨いていきたいと思わせて頂きました。



子どもおぢばがえり



動 静

出 直

▼誠綱分教会役員・誠健布教所長・小笠原健二様は7月20日出直された。享年91歳。葬儀は7月22日みたまうつしが、翌23日告別式がベルコソテイホール西札幌にて、澤田忠和・誠陽分教会長斎主のもと執行された。

年 祭

▼直轄所属・玉置淑子の霊様の1年祭は7月16日、網走市の自宅にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。
▼直轄所属・木田貞雄の霊様の50日祭、合祀祭は7月30日、斜里町の自宅にて瀬川定自・直轄世話人祭主のもと執行された。

7月人の「守護」

○初席者 (1名)

誠 央 橋 本 和 枝

○中席者 (6名)

女満別 福 田 和 彦
徳 道 福 田 綾 子
網 新 齋 藤 明 日 香
誠 綱 新 川 愛 貴
網 次 森 大 地 晴

○修養科修了者 (1名)

誠 綱 森 大 地

○おさづけの理拝戴者(1名)

誠 綱 森 大 地

○教人資格検定講習修了者 (1名)

武 士 村 井 実

○別席傍聴願 (1名)

木田光恵様 (夫50日祭)

育英会寄付者

大教会7月の動き

1日 役員会会議。お話し会

2日 少年会デイキャンプ。縦の伝道日

9日 網走支部例会会場。縦の伝道日

10日 役員会会議

11日 育成部部会。教祖140年祭網走おたすけ委員会会議

12日 月次祭。役員会会議。連絡会

13日 教会長夫妻練り合い

15日 修養科事前研修会網走よろこびセミナー (17日まで)

16日 縦の伝道日

17日 会長、札幌信者まわり (19日まで)。網走

支部婦人会例会会場

会長、おぢばがえり

縦の伝道日

23日 詰所23会。会長、本部神殿奉仕つとめる

24日 五季御礼。会長、本部災救隊会議出席

25日 本部月次祭遙拝。会長、教区主事会出席

26日 結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる。少年ひのきしん隊団体出発 (8月2日戻り)

27日 会長、おやさとかた講話講師 (28日まで)

28日 細木善信役員、本部神殿奉仕つとめる。こどもおぢばがえり団体出発 (8月2日戻り)

30日 縦の伝道日



教祖140年祭

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者		教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	婦参者	
						当月	累計							当月	累計
直轄	3	1				23	63	誠央	2	2				2	29
美幌							1	常道							1
女満別		5				10	30	徳道	1	7				7	34
斜里							0	満金							3
釧厚							1	網安							1
武士						2	35	オホーツク						5	16
常呂		1				16	35	網徳						3	3
旭網	1					5	13	栗沢						3	8
御料						2	0	徳盛	1	1					8
東藻							7	網新	3	3					4
陽光						7	14	網葉							17
呼人						2	9	網陽							1
誠陽		1				1	7	網誠							1
網栄						1	26	網次	3	13	1	4	1	5	35
實東						5	26	網昇	1	5					11
東網			2			6	6	網走							14
宗稚						12	21	話所							10
初席	1	16	9	38		1	4	修卒	1	4					15
教人								教人	1	111					442

(参拝者数 約80人)					
神殿講話	賛 者	指図方	扨者	祭主	祭 員
藤山重善	三遠桐 安澤藤 中山谷 光春浩善 繁広雄二	新川 正人	菅原 明宏	瀬川 定自	大教会 会長
胡三味琴 弓線	小す太拍 り子ん笛 がぼん 鼓ね鼓木	地 方		てをどり	祭 典
丸山藤崎のり 子代	大瀬藤澤桐結 山川山田谷城 雅定重忠厚和 人自善和平広	栗三細 林幣木 徳正善 信志	藤栗大丸新大 山林教会山川 リツ子一正長 道ツ夫入徳人		座りづとめ
三藤細 澤山木 田美真 直代美 美子	小増遠遠清菅 松田田藤水原 篤裕眞明信明 志一明広喜宏	田吉桐 中村谷 光善 繁正広	大青新在瀬青 山山川原川山 子子子子子子	聖泰知道定正 子子子子子子	前 半
栗三菅 林幣原 美直代 美子	岩安遠清三藤 原田藤宮澤井 光浩秀春広 繁広二明雄志	栗結新 林城川 徳和正 正広美	新三瀬清奥眞 川幣川水野壁 子子子子子子	有祐知直正 幸治幸治教	後 半